

住ベシート防水、防水一体アンカーの提案強化🔒

2025年09月号 連載

防水シートメーカーの住ベシート防水が、陸屋根用架台の基礎となる専用のアンカーを開発、防水シートと一体にしつつ、施工の低コスト化を実現した。EPC企業へ提案を強めている。



住ベシート防水の八木社長

陸屋根用架台の基礎の工法は、コンクリート基礎や置き基礎を用いる工法が一般的だ。ただ、コンクリート基礎は頑丈だが、重量が重く、施工費が高む。置き基礎はコンクリート基礎よりも軽く、施工費は安い。屋根と基礎が締結されていないため、地震などによる影響を受けかねない。

この状況下、防水シートメーカーの住ベシート防水が、置き基礎よりも軽く、施工費が安い。屋根と基礎をビスで固定させる新たなアンカー工法を開発。防水シートメーカーであるだけに、新工法には陸屋根の防水機能を維持・向上させる独自の防水シート一体の機能も組み込んでいる。

具体的には、屋根面と接するアンカーのベース材を覆うように、あらかじめ円形状の防水シートを取り付けておく。そして施工時は、下地とベース材を4本のビスで固定した後、円形状の防水シートを屋根上の防水シートと溶着させてシーリングする。アンカー1つの重さは600g程度と軽く、1カ所あたりの施工時間は10分程度だという。それゆえ、他の工法よりも工期が短く、施工費を削減できるようだ。

同社の八木敬祐社長は「当社は、現地調査をして屋根の防水シート工事とともにアンカーの設置工事を請け負う。太陽光発電設備のみの導入依頼には応じていない」としつつも、「屋根の防水補償は通常15年だから太陽光発電設備の耐用年数より短い。それだけに、太陽光発電の導入を機に防水対応を求めるニーズは少なくないはずだ」と語る。

同社は太陽光発電のEPC（設計・調達・建設）企業と連携を深め、受注獲得に力を入れる構えである。



専用の金属アンカーには、ベース材を覆うように円形の防水シートを取り付ける



施工時は、アンカーと下地をビスで固定し、円形の防水シートで溶着させる



防水一体アンカーを活用した陸屋根に設置された太陽光発電設備